

2021年11月9日

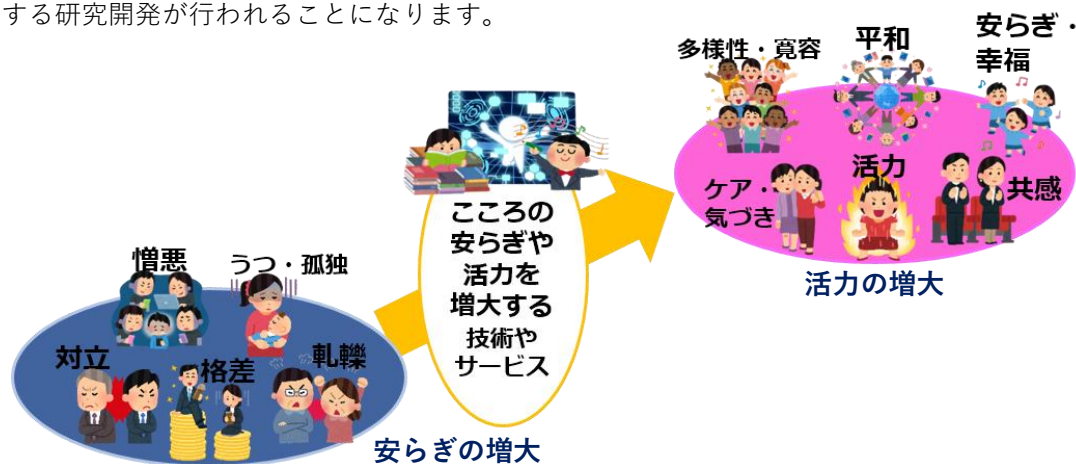
## こころの未来研究センター 熊谷誠慈准教授が ムーンショット目標9のプログラムディレクターに就任： 「2050年までにこころの安らぎや活力を増大することで、 精神的に豊かで躍動的な社会を実現」

### 概要

科学技術の進歩により、人類は物質的な豊かさを享受できるようになりました。他方で、こころに起因する様々な問題は未解決のままであり、いまだ多くの人々が苦しみや辛さを抱えながら暮らしています。科学技術開発の向かう先に、「こころの幸福」という目標がなければ、今後どれだけ科学が発展しても、人類は真の幸せを実現できないでしょう。

2021年1月、京都大学こころの未来研究センターの熊谷誠慈准教授らの共同研究チームは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が実施した、新たなムーンショット目標<sup>注1</sup>を検討する「ミレニア・プログラム」に採択され、半年間の調査研究を実施しました。その結果、内閣府総合科学技術・イノベーション会議により、新たに2つのムーンショット目標（8、9）が決定され（2021年9月28日）、そのうちの一つであるムーンショット目標9「2050年までにこころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」の内容に、「ミレニア・プログラム」における熊谷准教授らの調査研究成果が生かされました。

2021年11月9日、JSTによりムーンショット目標（8、9）のプログラムマネージャー（PM）公募が開始され、そのうちムーンショット目標9「2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」のプログラムディレクター（PD）に、熊谷准教授が就任することになりました。同目標では、文理融合を強く推奨し、科学技術に人文社会科学等を加えた“総合知”をもって、こころの安らぎや活力を増大することで精神的に豊かで躍動的な社会を実現すべく、こころの状態理解と状態遷移技術に関する研究開発が行われることとなります。



## 1. ムーンショット目標9の経緯

近年、情報技術等が高度に発展する一方、「こころ」に起因する社会問題はますます深刻化しています。個人におけるうつ・ストレス・不安・孤独、また、個人間における虐待・いじめ、集団における軋轢・紛争・多様性への不寛容等の諸問題の深刻さは、特に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により顕在化しています。

そうした中で、個人から集団までにおいて、それぞれの「こころ」を総合的に理解し合い、思いやりのあるコミュニケーションを図り、互いに調和しながら自ら望む方向や、自ら進むべき方向に向かえるようになることが重要であり、そこに科学技術を正しく活用することが、精神的に豊かで躍動的な社会を実現していくための大きな鍵の1つとなるものと思われます。

2021年1月、本学こころの未来研究センターの熊谷誠慈准教授をチームリーダーとした、上田祥行特定講師、栗野皓光准教授（本学情報学研究科）、三浦典之教授（大阪大学情報科学研究科）らのチームは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が実施した、新たなムーンショット目標を検討する「ミレニア・プログラム」に採択され、半年間の調査研究を実施しました。その結果、内閣府総合科学技術・イノベーション会議により、新たに2つのムーンショット目標（8、9）が決定されました（2021年9月28日）。

そのうちの1つであるムーンショット目標9「2050年までにこころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」の内容に、「ミレニア・プログラム」における熊谷准教授の調査研究チーム、岡田志麻准教授（立命館大学）の研究チーム、西本智実氏（指揮者・舞台演出／慶應義塾大学）の研究チームの調査研究成果が生かされました。

2021年11月9日、JSTによりムーンショット目標（8、9）のプログラムマネージャー（PM）公募が開始され、そのうちムーンショット目標9「2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」のプログラムディレクター（PD）に、熊谷准教授が就任することになりました。

同目標では、文理融合を強く推奨し、科学技術に人文社会科学等を加えた“総合知”をもって、こころの安らぎや活力を増大することで精神的に豊かで躍動的な社会を実現すべく、こころの状態理解と状態遷移技術に関する研究開発が行われることとなります。

## 2. ムーンショット目標9の概要

【目標】2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

【PD】熊谷 誠慈（京都大学 こころの未来研究センター 准教授）

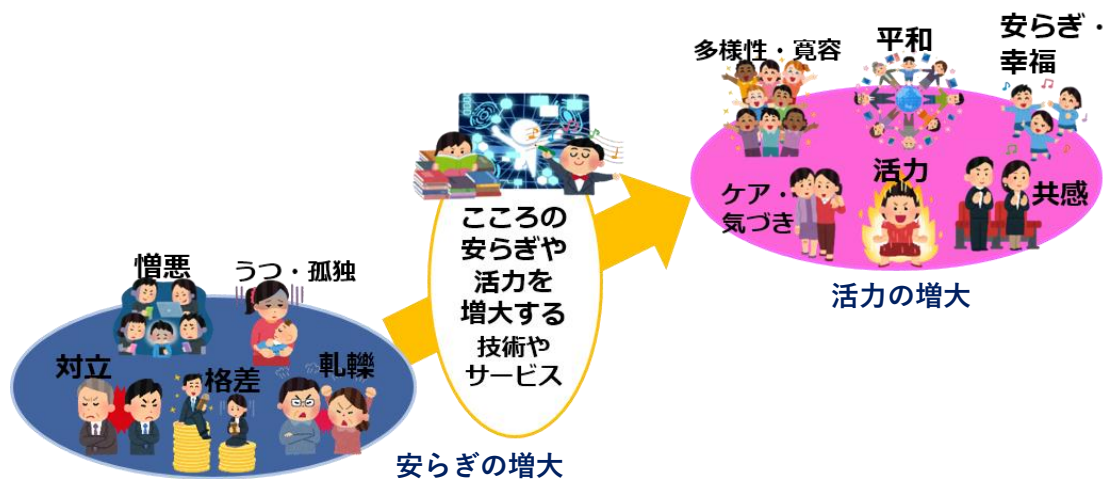
【ターゲット】

### ①個々のこころの状態理解と状態遷移

- ・2050年までに、こころの安らぎや活力を増大し、こころ豊かな状態を叶える技術を確立する。
- ・2030年までに、こころと深く結びつく要素（文化・伝統・芸術等を含む。）の抽出や測定、こころの変化の機序解明等を通して、こころの安らぎや活力を増大する要素技術を創出する。加えて、それらの技術の社会実装への問題点を幅広く検討し、社会に広く受容される解決策の方向性を明らかにする。

### ②個人間・集団のコミュニケーション等におけるこころのサポート

- ・2050年までに、多様性を重視しつつ、共感性・創造性を格段に高める技術を創出し、これに基づいたこころのサポートサービスを世界に広く普及させる。
- ・2030年までに、人文社会科学と技術の連携等により、コミュニケーションにおいて多様性の受容や感動・感情の共有を可能にする要素技術を社会との対話を広く行いながら創出する。



※詳しくは内閣府の HP をご参照ください。

(URL : <https://www8.cao.go.jp/cstp/moonshot/sub9.html>)

(URL : <https://www8.cao.go.jp/cstp/siryu/haihui057/haihu-057.html>)

### 3. ムーンショット目標9の公募に関する情報

本目標の公募内容の詳細につきましては、JST の HP をご参照ください。

(URL : <https://www.jst.go.jp/moonshot/koubo/>)

#### <用語解説>

1. ムーンショット目標：内閣府が主導する「ムーンショット型研究開発制度」において、超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題の解決のために設定された、人々を魅了する野心的な目標のこと。ムーンショット目標の達成に向けた研究開発を、科学技術振興機構（JST）等の研究推進法人が推進。

#### <研究者のコメント>

近年、物質的な拡張や経済的な拡張ばかりが重視されていますが、物質的豊かさだけでは人は真の幸せは達成できません。やはり「こころ」の問題を切り離すことはできないでしょう。本ムーンショット目標では、人類が古代から蓄積してきた様々な叡智を科学技術と融合させることで、これまでにない新しいテクノロジーを創出し、人々と社会に安らぎと活力をもたらし、精神的に躍動する社会の実現に寄与することを目指します。

